

2018年1月1日～2018年12月31日の間に 岡山大学において献体をされたご遺族の方へ

「腹壁再建における腹腔内 Recipient Vessel の解剖学的検討」へご協力をお願い

研究機関名 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
研究機関長 研究科長 大塚愛二

研究責任者	岡山大学病院	形成外科	助教	松本 洋
研究分担者	岡山大学医歯薬学総合研究科	人体構成学	助教	品岡 玲
	岡山大学医歯薬学総合研究科	人体構成学	教授	大塚 愛二
	岡山大学医歯薬学総合研究科	形成再建外科	教授	木股敬裕

1. 研究の概要

1) 研究の背景および目的

がんの切除などにより腹部を構成する皮膚や筋肉（腹壁）が全て欠損した場合、小さな欠損であれば周囲の皮膚を移動することで欠損を閉じることができますが、ある一定以上の大きさの欠損になると体の他の部位より血管を付けた組織（遊離皮弁といいます）を作成し、それを欠損部に移動する手術（再建術）をおこないます。この場合、遊離皮弁の血管を欠損部周囲の血管（recipient vessel といいます）につながなければなりません。つなぐ血管は腹部の内でも外でも選択できますが、使いやすさの点から通常は腹部の外の血管が使用されることが多いです。一方、過去に腹部周囲の放射線治療や手術がなされた方はその影響により腹部の外の血管が使えない事があり、その場合は腹部の内の血管を使うこととなります。しかし腹壁再建全体における腹部の内の血管を使用する頻度は非常に低く、したがって、腹部の内の血管に関する研究はこれまで十分になされておられません。本研究ではご遺体を用いて腹部の内の血管の解剖をおこなうことで、遊離皮弁を移植する際に腹部の内の血管の適切な選択を可能にすることを目的におこないます。尚、この研究に参加されましても、通常の状態解剖は行われます。参加による不利益はございません。

2) 予想される医学上の貢献及び研究の意義

腹部の組織欠損の修復に際し、適切な血管選択が可能となりより安全かつ確実な組織移植が可能となります。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

- ①2018年1月1日～2018年12月31日の間に岡山大学において献体された5名を研究対象とします。
- ②生前に自由意志による献体の同意を本人から文書で取得した御遺体。

2) 研究期間

倫理委員会承認後～2019年12月31日

3) 研究方法

2018年1月1日～2018年12月31日の間に、岡山大学において献体された方5名を研究者が解剖を行い、腹部における血管の状態、分布を明らかにします。

4) 使用する試料

ご遺体の一部である腹部血管の分布を調べますが、ご遺体の氏名などの情報は削除し、匿名化して、あなたの情報などが漏洩しないよう プライバシーの保護には細心の注意を払います。

5) 使用する情報

この研究に使用する情報として、以下の情報を抽出し使用させていただきますが、ご遺体の氏名などの情報は削除し、匿名化して、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢, 性別, 手術歴, 既往歴

6) 試料・情報の保存、二次利用

この研究に使用した試料・情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院形成外科内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の試料・情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究計画書および個人情報の開示

この研究における個人情報の開示は、故人が生前希望された場合に御遺族にのみ行います。内容についてお分かりになりにくい点がございましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究はご遺体のデータを氏名や生年月日などの個人を識別できる情報がわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、献体者の試料・情報が研究に使用されることについて御遺族がご了承いただけない場合には研究対象としないので、御遺族の方は2019年11月30日までに下記の連絡先までお申し出ください。この場合は献体者の方々に不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 形成外科

氏名：松本 洋

電話：086-235-7214（平日：8時30分～17時15分）

ファックス：086-235-7210